

2019

気候変動に関する政府間パネル(IPCC)第49回総会京都市開催記念シンポジウム開催。2050年ごろまでに二酸化炭素排出量の「正味ゼロ」に向けて、あらゆる方策を追求し具体的な行動を進めていくことを決意し、世界に訴える「1.5℃を目指す京都アピール」を発表。

1997

京都議定書が国連気候変動枠組条約第3回締約国会議(COP3)で採択。

1997-2007

京都市国際化推進大綱  
多文化共生の観点を追加。

1990-1996

京都市国際交流推進大綱  
世界文化自由都市宣言を具現化するため策定し、数々の施策に取り組む。

1978

世界文化自由都市宣言  
文化による世界平和の実現を希求。「全世界のひとつが、人種、宗教、社会体制の相違を超えて、平和のうちに、ここに自由につどい、自由な文化交流を行う都市」を理想とし、これをあらゆる政策の最上位の理念に位置付け。

国際博物館会議(ICOM)の世界大会が日本で初めて、京都で開催。

第4回「国連世界観光機関(UNWTO) / ユネスコ 観光と文化をテーマとした国際会議」が京都市で開かれ、「観光・文化京都宣言」が採択。

2009

フランス総領事館の京都への移転。

2011  
ゲート・インスティテュート・ヴィラ鴨川(旧:京都ドイツ文化センター:1983年)の創設。

2017

2017  
京都議定書誕生20周年記念「地球環境京都会議(KYOTO+20)」を開催。

2011

2011  
ゲート・インスティテュート・ヴィラ鴨川(旧:京都ドイツ文化センター:1983年)の創設。

2008-2020

京都市国際化推進プラン / 京都市国際化推進プラン改訂版  
大綱策定後10年間に生じた国際情勢を巡る情勢の変化とそれに伴う課題を踏まえて策定。2014年に見直し。

2021

2021

京都市国際都市ビジョン  
京都市が目指す4つの国際都市像(裏面)の実現に向け、環境、文化、産業、福祉、教育等、各政策を展開する際の指針として策定。

2017

2017  
東アジア文化都市2017が京都市、長沙市(中国)、大邱広域市(韓国)において開催。

2008-2020

京都市国際化推進プラン / 京都市国際化推進プラン改訂版  
大綱策定後10年間に生じた国際情勢を巡る情勢の変化とそれに伴う課題を踏まえて策定。2014年に見直し。

2009

2009

2008

2008

1997

1997

1994

1994

1990

1990

1989

1989

1987

1987

1987

1987

1987

1987

1987

1987

1987

1987

1987

1987

1987

### 国際社会における都市間競争への対応と外国籍市民等が安心して暮らせる体制整備

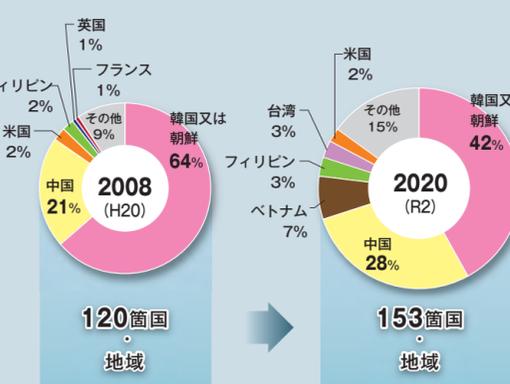
世界に向けて京都市の魅力を発信するとともに、SDGsの推進等に取り組む世界の優れた企業や研究者、技術者等に選ばれるような環境の整備が必要です。また、京都市に暮らす外国籍市民の数は約4万6千人(2020(令和2)年12月現在)となり、その国籍や文化的背景も多様化しており、異なる価値観を認め合い、協働しながらまちづくりができる環境整備が必要です。



### 京都市の住民基本台帳人口に占める外国籍市民の割合の推移

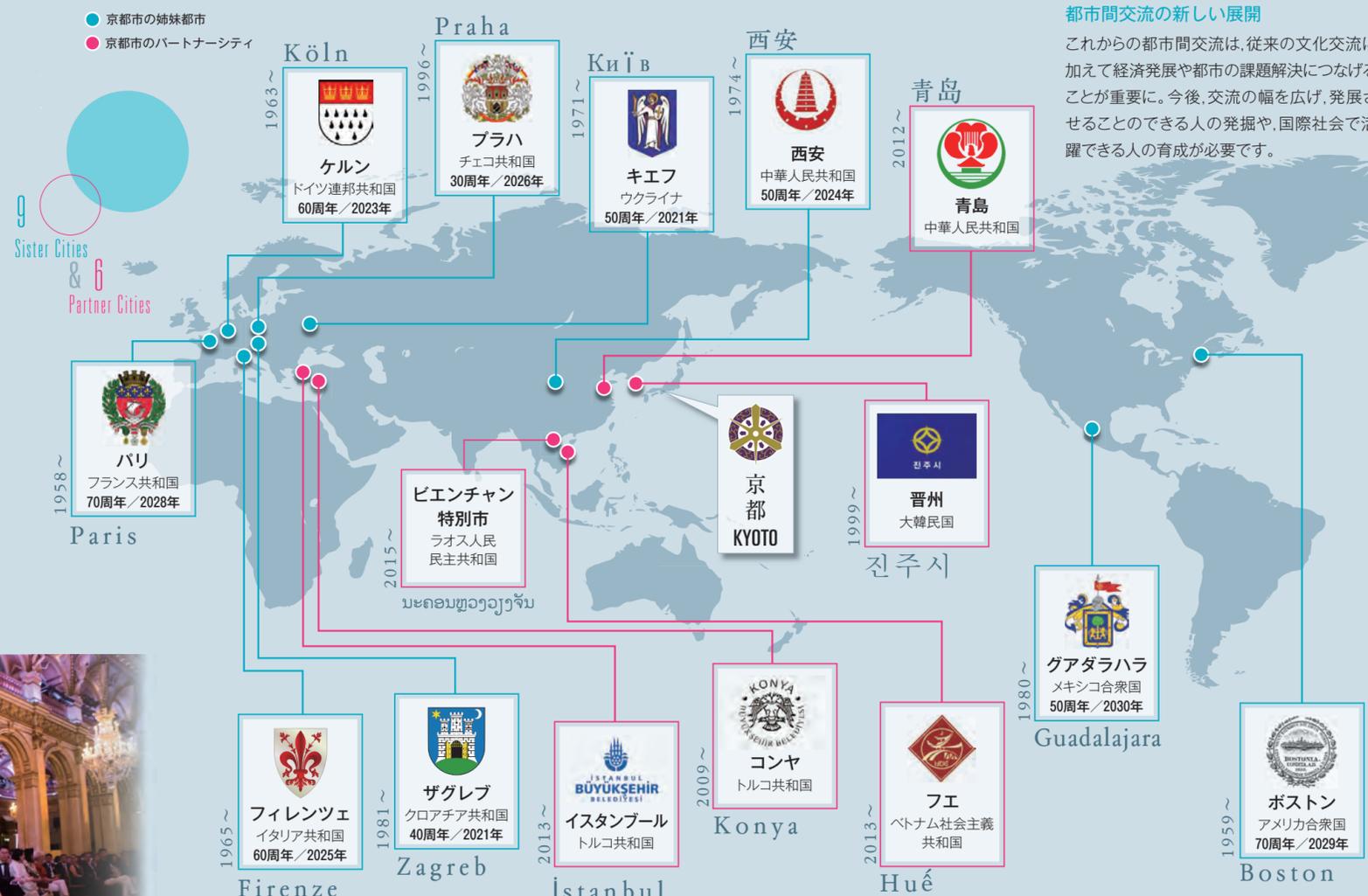


### 京都市内に在住する外国籍市民の国籍・地域の変化



### 京都市の姉妹都市・パートナーシティ

● 京都市の姉妹都市  
● 京都市のパートナーシティ



### 都市間交流の新しい展開

これからの都市間交流は、従来の文化交流に加えて経済発展や都市の課題解決につなげるのが重要。今後、交流の幅を広げ、発展させることのできる人の発掘や、国際社会で活躍できる人の育成が必要です。

## 京都市の国際政策



# Kyoto International City Vision

## 京都市国際都市ビジョン





to be KYOTO  
as a Global City

### 世界の都市「KYOTO」として成長していくために

平和、安全、安寧の願いをこめて名付けられたと伝わる「平安京」には、都市を囲む城壁がありませんでした。千年以上も前から世界に開かれていたこのまちは、国内外から多くの人たちが集い、交流を重ねるなかで、各地の優れた文化を取り込みつつ、今日まで発展を続けてきたのです。

コロナ禍で海を越えての移動が大きく制限を受ける現在、改めて国際交流・協力の重要性が高まり、また、あらゆる困難を乗り越えていくために多文化共生のあり方も問われています。

広く世界と文化的に交わりながら、共に成長する。国際社会、世界平和に貢献する。そして、世界を魅了するまちへ。笑顔あふれる豊かな「KYOTO」を目指した持続可能なまちづくりに、市民ぐるみで取り組んでまいります。

2021(令和3)年3月

京都市長 **門川 大作**



### 京都市国際都市ビジョンのイメージ

2030

## 1 世界を魅了し、 多種多様な人々が 集まるまち

取組の方向性

- 新たな価値創出につながる京都の魅力の深化
- 外国人研究者や技術者、起業家、留学生等にとって魅力ある環境整備
- あらゆる機会を通じた世界の都市「KYOTO」の魅力発信

## 2 海外都市との連携が 強まり、国際社会に 貢献するまち

取組の方向性

- 文化の力を土台とした国際交流・協力による国際社会や世界平和への貢献
- 海外都市との相互利益型の都市間交流の推進

## 本市が目指す 国際都市像

## 3 さまざまな世代で 国際交流や多文化共生の 意識が高まり、国際感覚を もった人が育つまち

取組の方向性

- グローバルな視点をもって地域の発展に貢献する担い手の育成
- 幅広い年齢層が世界の多様な文化に触れる機会の創出
- 京都市の国際展開を支える職員の育成

## 4 多様性を生かした まちづくりが進み、 市民の生活が 豊かになっているまち

取組の方向性

- 多言語による情報提供・コミュニケーション支援
- 外国籍市民等が安心・安全に暮らせる体制整備
- 外国籍市民等による地域・市民活動への参加促進
- 外国籍市民等の地域での就労支援

国際的な事業を  
展開する意義

世界の活力を  
取り込む

多様な価値観に  
触れる機会を  
生み出す

国際社会における  
都市ブランド力を  
高める

都市の  
レジリエンスを  
高める

環境

人権・  
男女共同  
参画

地域  
コミュニティ

文化・  
スポーツ

観光

大学

商業・  
産業

子ども  
若者支援

福祉

保健衛生  
医療

学校教育  
生涯学習

危機管理  
防災  
減災

歩くまち

景観

住宅

政策分野の計画等

### 国際的な事業を展開する意義

国際的な事業\*を、京都市が都市間交流や経済活動を通じて国際社会に貢献しながら成長し、市民生活を豊かにしていくための「未来への投資」として捉え、以下の4つの意義のもと、総合的に推進します。

※海外販路開拓、国際交流、国際協力、多文化共生等に係る事業

#### 1 世界の活力を 取り込む

少子高齢化やグローバル化の進展、ライフスタイルの変化や技術革新が進むなか、海外の成長市場や先進的な取組、最先端で活躍する人々や留学生など、世界の活力を取り込むことは、新しいビジネスモデルの創出等による京都経済の活性化、文化芸術の創造性への刺激となり、世界の都市「KYOTO」としての成長に不可欠です。

#### 2 多様な価値観に触れる 機会を生み出す

海外の都市や企業・団体、市民との豊富な交流の機会、外国籍市民等が地域の一人として暮らし、さまざまな考え方が共存する環境など、多様な価値観に触れる機会を生み出すことは、グローバルな視点を持つ将来の担い手育成、人々との関係性や経済・文化芸術活動においてイノベーションを起こす原動力となり、個人、地域、企業、ひいては都市の成長につながります。

#### 3 国際社会における 都市ブランド力を高める

本市が誇る文化・歴史風土や、環境・景観政策など精力的に取り組んでいる分野において、海外の都市と情報や知見を共有し、世界で共通する課題の解決に寄与することは、都市間の良好な関係構築のみならず、国際社会における都市ブランド力を高めることにつながり、本市が世界の都市「KYOTO」として成長していくための大きな後押しとなります。

#### 4 都市の レジリエンスを高める

震災や豪雨災害等、さまざまな危機に際し、地域の中に暮らす人々が国籍や文化を超えて支え助け合うために、円滑にコミュニケーションが取れ、信頼し合える環境を日常的に整備すること、また、海外の都市や団体、機関と日常から良好な関係を築き深めておくことは、非常時や復興時に支え合う動機にもつながるため、都市のレジリエンスを高める意味でも重要です。

「京都市国際都市ビジョン」について詳しくは

<https://www.city.kyoto.lg.jp/sogo/page/0000283160.html>



発行月：令和3(2021)年3月

発行：京都市 総合企画局 国際交流・共生推進室

住所：〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488番地

T E L : 075-222-3072